

特集 パーティって何？

「おしゃべりパーティ」とは何か、  
実践例からの接近

青木 美紗  
(京都大学大学院農学研究科博士後期課程)



パーティに提供される商品セット

はじめに

生活協同組合の組合員活動は、班会をはじめ、テーマ別学習会、生産者交流会、たすけあいの会など、多岐にわたっており、組合員どうしの交流や生協への理解を高める活動として重要な役割を果たしてきた。近年、このような組合員活動の中に、「おしゃべりパーティ」や「おしゃべりの会」といったものが登場しはじめている。しかし、その内容や変遷と現状についてはあまり知られていない。本稿では、「おしゃべりパーティ」に取り組んでいるララコープ、コープしが、生協しまねの事例を取り上げ、「おしゃべりパーティ」がどのようなものなのか概観する。

試行錯誤によって創られた  
「ララパーティー」

本節では、「おしゃべりパーティ」の代表的取組みであるララコープが実施している「ララパーティー」について、くらしと協同の研究所で実施されたおしゃべりパーティ研究会における報告内容および2012年2月2日～3日に同研究所が実施したララコープにおけるインタビュー調査の資料に基づいて紹介する。

(1) 「ララパーティー」とは

長崎県にあるララコープでは、2003年秋より年に2回、春と秋に「ララパーティー」を企画し開催している。「ララパーティー」は、生協から無料で提供される商品セット(食品)を囲んで、核となる組合

表1 「ララパーティー」商品セット例

年度	セット名称	セット内容
2004 秋	お父さんのおもてなしセット	ビール、おでん、いかゲソ
2005 春	きつとあの人も食べている？韓流セット	豚トロ和風、卓上パック味付け他2品
2005 秋	むかしなつかし菓子セット	前田のクラッカー、鈴カステラ他4品)
2007 春	たべるたいせつ、ひと手間セット	マカロニグラタン、鶏ささみフレーク他3品)
	お決まりセット	黒糖かりんとう、厚切りバームクーヘン、彩果菜園
2013 年間	選べるセット	人数に応じた金額内でリストから自由に組み合わせ
	お買いものセット	人数に応じた金額内店舗の商品を自由に選択

員と近所の人、職場の人、家族によって自宅や職場、公共施設などで開催される。開催呼びかけ期間中に、開催を希望する核となる組合員が組合員や非組合員を問わず仲間に呼びかけて「ララパーティー」の開催を計画し、参集人数分の商品セットを注文する。商品セットメニューの例は表1のようになっている。2013年には、既定のセットだけでなく、生協商品から自由に選べるセットも加わっている。注文した商品は「ララパーティー」開催期間中に商品が届けられるので、参集したメンバーとともにその商品を囲んでおしゃべりをする活動を、組合員それぞれが都合のよい日時に開催する。そして開催後に、パーティの様子に関する報告書を任意で提出する仕組みとなっている。

ララコープは「ララパーティー」を、「班の仲間やご近所・知人・友人と一緒に、又、家族で生協の商品を試食しながら暮らしのこと・生協の商品のこと・子育てのこと・介護・平和・時事問題等、日頃の生活の中での話題を『語り合い』地域での人と人とのつながり・家族の会話を深めるためのコミュニケーションツール(=みんなが集うきっかけ)」であると考えている。すなわち、「仲間づくり」といった組合員拡大を目的とするのではなく、生協商品(食品)を囲んで非組合員も含めておしゃべりをする活動であるといえる。

## (2) 「ララパーティー」の誕生まで

「ララパーティー」の前身は1999年に始められた「ワイワイ産直パーティー」である。これは、1999年のコープながさきと佐世保生協の合併によるララコープの誕生と同時に、事業連合化と個配が発展する中で、商品活動を組合員の身近なところでおこなう必要があるという危機感が芽生えたことにより、料理が必要な産直商品をセットとして班に提供したものであった。しかし、調理に手間がかかることから組合員からの反発があった。

一方で、合併するに当たって、2つの生協のうち大きい方に吸収合併するのではなく、「新しい生協を創ろう」という改革意識が芽生えたことも「ララパーティー」の発足に繋がっている。そのよう改革意識によって、他の生協が取りかかろうとすることを渋っていた、班長会をなくすという思い切った行動をとることが可能となったのである。班長会をなくしたことによって、班会も消滅することとなり、班メンバーや地域におけるコミュニケーションが激減してしまった。同時に、「班」に支給されていた班活動費がメンバーの交流に使われていないことも独自調査で発覚し、組合員がもっと有効に活用するための方法も模索することとなった。

模索段階においてパーティの形態は試行錯誤を繰り返していた。その変遷は表2に

示すとおりである。2001年にセットを企画したこと、そして2002年に「おさそい」という組合員勧誘の敷居をなくしたことによって利用が急増した。これらの特徴を踏まえた上で、①メンバー交流の減少②班活動費の有効活用法という2つの課題を解決する方法として2003年秋に「ララパーティー」が誕生したのである。

### (3) 「ララパーティー」の変遷

2003年秋から2011年秋までの「ララパーティー」開催箇所および参加人数の推移を図1に示す。開催箇所、参加人数ともに開催時期によってばらつきがあることがわかる。1か所あたりの平均参加人数は、3.5人～7.1人となっているが、近年は少人数で開催する傾向にある。2004年秋と2007年春は、特にパーティ開催箇所と参加人数が多いことがわかるが、この背景にあるものは何であろうか。

2004年秋は、理事の「ララパーティー」企画担当と幹部職員が、一緒に報告書の読み込みをおこない、組合員のくらしや「ララパーティー」企画に関する意志統一に力を入れたことが関係している。理事と職員が一緒に読み込むことによって、職員の事

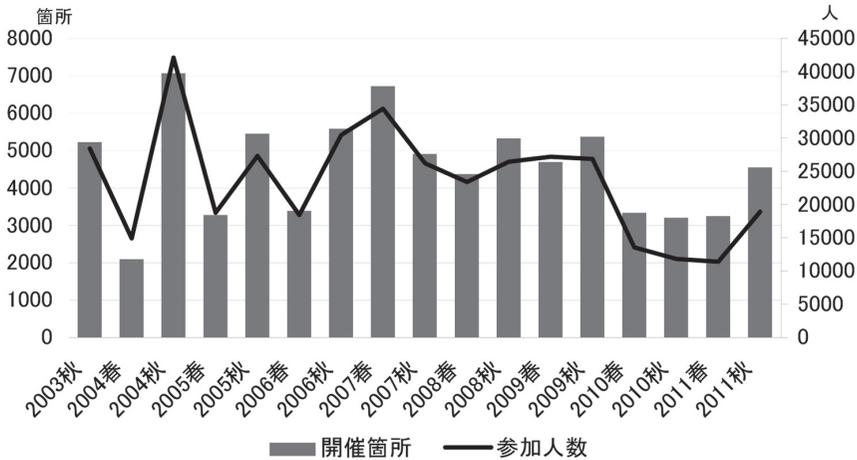
業や組合員のくらしに対する課題を発見することができ、パーティの重要性を実感した上で、組合員への「ララパーティー」開催呼びかけをおこなうことができたそうである。

2007年春は、それまで開催をみとめていなかった家族のみでのパーティ開催を実験的に認めたことが参加人数の増大に繋がった。家族開催を導入するにあたり、職員のなかにはパーティ用の商品が晩ご飯のおかずになってしまうのでは」という懸念の声があり、家族開催に前向きではなかった。しかし、家族間でもコミュニケーションが薄れているという時代背景を鑑み、理事側は積極的に導入するよう要求した。結果は、数値にも出ている通り一目瞭然であり、組合員の報告書からも、「パーティが家族に召集をかけるきっかけとなった」「家族(夫婦や親子)でのコミュニケーションが見えた」など前向きな内容がたくさん報告されている。

このように、報告書から組合員のくらしを読み解き、時代のニーズに臨機応変に対応したことが「ララパーティー」を拡大した要因になっていると考えられる。

表2 「ララパーティー」誕生までの「パーティ」の変遷

年	時期	パーティー名称	パーティーの特徴	参加者数
1999	秋	ワイワイ産直料理パーティー	班会への商品普及のためのツールとして調理の必要な具財セットを提供。	1,052
	春	ゲストを招いてコープパーティー	仲間づくりのためにゲストを招くことを必須とした。	1,126
2000	夏	食の安全コープパーティー	食品安全基本法成立に向けて学習材料をセットに盛り込んだ。	4,587
2001	秋	コープパーティー	理事グループにより、手間のかからないセットを企画。	12,322
	春	おさそいコープパーティー	仲間づくりのおさそいを必須とした。	6,549
2002	秋	コープパーティー	仲間づくりであるおさそいという敷居をなくした。報告書を提出してもらう。	16,798
2003	春	春の語り合いコープパーティー	企画運営主体を事業部から組合員理事に移行し、コミュニケーションツールとしてのパーティーを開催。	17,487



出所) くらしと協同の研究所資料より筆者作成  
 図1 「ララパーティー」開催数と参加人数の推移

#### (4) 職員と組合員の相互理解を図る読み込み会

報告書は、組合員と理事のコミュニケーションツールとしての役割を果たすが、組合員と職員との相互理解を深めるうえでも非常に重要な機能を持っている。ララコープでは、職員が組合員のくらしに近づき、事業や活動に活かせるよう、報告書の読み込み会を進化させている。

「ララパーティー」開始時は、組合員理事のパーティー担当グループのみで報告書を読み込んだが、報告書の内容が組合員のくらしや商品に関する率直な感想をたくさん含んだ「宝の山」であったため、2004年からは職員も含めた読み込み会を実施した。その後、2006年には店舗を含めた30カ所で読み込み会を実施し、組合員の声を共有化することを始めた。2008年には64カ所で読み込み会をおこない、各読み込み会の目標を一覧表にして事業にフィードバックする工夫をおこなった。2011年には、職員の意識向上や組合員の声への理解向上を狙うため、読み込み会の感想をまとめる「振り返りシート」を記入することを

始めている。1回の読み込み会は90分であり、そのうち最初の30分で1人約100枚の報告書を読む。そして、それぞれが感じたことを「振り返りシート」に記録するのである。

このような取組みによって、職員と組合員理事の意思統一が図られてきたが、「ララパーティー」さらに組合員にとって魅力的なものにするためには、この読み込み会のやり方の工夫改善を更におすすめしていく必要があるようだ。

#### 組合員の声を聞くツールとしての「ぱくぱくパーティー」

コープしがでは、全国でも比較的早い段階から、組合員主体によるおしゃべりを楽しむことを目的とした会を開催し、現在も「ぱくぱくパーティー」という名称で「おしゃべりパーティ」を実施している。本節では、コープしがにおける取組みについて、2013年8月26日に実施した聞き取り調査の内容をもとに紹介したい。



2013年8月26日コープしが訪問調査

(1) 「ばくばくパーティー」とは

「ばくばくパーティー」は、生協が無料で提供する商品を囲んで、友だち、近所の人あるいは家族3名以上でおしゃべりを楽しむために、組合員によって開催されるパーティーである。開催を企画した組合員は、パーティー開催後に、参加したメンバー構成や会話の内容を「ばくばくメモ」という報告書に記載して生協に提出する。

「ばくばくパーティー」には、「無店舗(共同購入・個配)」型、「店舗」型、「つどい型」の3パターンがある。「無店舗」型では、「パーティー」申込期間(約2週間)に、組合員が商品セットを注文し、パーティー開催期間に無料で届けられる商品を囲

んでパーティを開催する。そして終了後に「ばくばくメモ」を記入し、次回注文時に提出する。「無店舗」型では商品セットが3種類用意されている(図2)。これらのセット内容は、いろんな世代、開催場所、集まる状況を想定しながら考えだされている。「店舗」型では、店舗に設置されている申込書で商品セットを注文し、店舗で受け取ったあと、各自でパーティを開催する仕組みである。「店舗」型の商品セットは、1種類のみで「無店舗」型の商品と異なるものを提供していることが多い。2013年の企画については、「無店舗」型で提供する商品セットの1つ(図2のAセット)を「店舗」型で提供した。

「つどい型」の「ばくばくパーティー」とは、コープしがの各地区事務局で開催日時、開催場所、利用する商品セットを指定し、参加希望者に会場に来てもらうパーティーの方法であり、2010年から開始された。1人でも申し込み可能なため、高齢2人暮らし夫婦や若い夫婦、いろいろな人と話をしたい人などが利用している。特に託児を設けていることから、子育てに悩む若いお母さん方の参加も増えている。2012年の会場数13か所、2013年は16か所(図



図2 「ばくばくパーティー」商品例

**ぱくぱくパーティー・つどい型 開催会場一覧**  
 ご都合の良い会場・日程を選んでお申し込みください

<b>①安曇川公民館</b> 高崎市安曇川町中99 8月28日(水) 10時～12時 受付 [A01]	<b>②コープしが長浜センター</b> 長浜市上板町 1020-1 7月13日(土) 10時～12時 受付 [K06]	<b>③湖北公民館</b> 長洲市湖北町津本 2745 7月12日(金) 10時～12時 受付 [K05]	<b>④米原公民館</b> 米原市下多良 3丁目3 8月2日(金) 10時～12時 受付 [K04]
<b>⑤コープしがゆめふうせん</b> 大津市山崎5丁目33-25 8月21日(水) 10時～12時 受付 [A02]		<b>⑥ミントハウス</b> 彦根市長巻橋南町 468-5 7月8日(月) 10時～12時 受付 [K03]	<b>⑦一円原寮</b> 犬上郡多賀町一円 149番地 7月12日(金) 10時～12時 受付 [K02]
<b>⑧コープしが生協会館</b> 大津市船場1-1 コープせせ2階 8月30日(金) 10時～12時 受付 [A04]		<b>⑨コープしが長津津センター</b> 長津津市山5丁目3-50 8月26日(月) 10時～12時 受付 [A05]	<b>⑩コミュニティセンターやす</b> 野洲市小橋原 2100-1 7月12日(金) 10時～12時 受付 [B02]
<b>⑫コープしが草津事務所</b> 草津市西草津 2丁目 7月16日(火) 10時～12時 受付 [B01]	<b>⑬サントピア水口</b> 甲賀市水口町北内前1-1 7月5日(金) 10時～12時 受付 [H01]	<b>⑭わたむきホール虹</b> 彦根市彦根野村大学ビル 1661 7月4日(木) 10時～12時 受付 [H03]	<b>⑮八日市アビオホール</b> 近江八日市市南町 3-1 8月28日(水) 10時～12時 受付 [H04]

図3 「ぱくぱくパーティー」つどい型開催場所

3)と毎年開催会場数を増やしている。1会場あたりの平均参加者は5名程度で、参加者のほとんどが組合員である。各パーティに事務局側として、職員やエリア担当理事2名程度が参加し、「ぱくぱくメモ」は事務局職員が作成する。

以上3タイプの「ぱくぱくパーティー」に加えて、国際協同組合年の取組みとして2012年度に「持ち込み型」を実験的に実施した。これは、地域団体などからも意見を収集するために、生協商品を持ち込んで話し合いをするという企画である。2012年度は滋賀県内の大学生とのパーティを実施し、今後の活動に活かそうな若年層の意見を聴くことができたようだ。

## (2) 「ぱくぱくパーティー」の歴史

では、現在のような「ぱくぱくパーティー」に至るまでにどのような経緯があったのであろうか。

コープしがは1993年に4つの生協が合併して設立した生協であり、機関運営に繋がる基礎は「班」ではなく「グループ」と

呼んでいる。「グループ」という名称は、時代の変化の中で親しみやすさや仲間という意識を表現するために考え出されたものである。各「グループ」には活動のための費用である「グループ活動費」があったが、グループ活動費が税法上認められない状況の中で、この活動費をこれまでの組合員の活動の位置づけにどう転換して組合員に還元していくかということが大きな課題であった。そこで、商品を学ぶ活動や試食するという活動が多い組合員活動における商品活動の一環として、1995年に「ぱくぱくパーティー」の前身である「食を楽しむ会」の開催を生協が組合員に推奨した。「食を楽しむ会」は、グループ活動費にかわる還元の位置づけもあり、グループ単位での開催が原則とされていたが、生協組合員以外にもゲストとして迎えることは認められていた。しかし、組合員がグループ以外の組合員と繋がって生協活動が出来るような、組合員の参加と参画を広げることを目指していたこともあり、グループの枠組みに拘束されない形式に変わっていった。一方で、「食を楽しむ会」が組合員拡大の手段として捉えられ、組合員はゲストを招くことを控えるようになってしまった。

そこで、2006年に当初の趣旨を改めて確認するとともに、組合員の声を理事会がきちんとくみ上げることを企画の目的とし、名称も「おしゃべりパーティー」に変更した。同じ時期に、生協の組織改革が検討される中で、組合員が生協運営に参加するにはどのような方法があるのかが模索されていた。そして、「おしゃべりパーティー」開催後に、組合員の暮らしについて報告してもらうことが、生協運営への参加になり得るのではないかと考えるに至ったそうである。パーティ開始以降、生協のこと、生協商品のことだけでなく、く

らしの中の話題や困っていることなども報告書で記載されるようになり、このような組合員からの声を事業や活動方針に活かす必要性を見出すことになる。さらに、できるだけ多くの組合員の声を事業に反映させていきたいという思いも強まってきたのである。このような流れを受けて、もっと多くの組合員が気軽にパーティに参加できるよう、2008年から「ばくばくパーティー」を開始する。「ばくばく」というのは、コープしがのイメージキャラクターである「ばくばくくん」が由来となっており、親近感や気軽さを感じさせる。このような気軽なパーティに行きついた要因のひとつに、くらしと協同の研究所が主催した「おしゃべりパーティ研究会」でのララコープの活動報告があったそうである。また、「ばくばくパーティー」では、組合員の声を事業や活動方針に活かすために、「ばくばくメモ」の読み込み会を理事協議会、所属長会議、各センターで行うようにしている。

2009年までは、年に2回(5月と10月)開催していたが、同じ組合員が参加する傾向があった。そのため、より多くの組合員に参加してもらいたいという思いから、2010年には年1回開催にするとともに、「つどい型」の開催が始まった。また、家族開催を可能としたのも、この年である。家族開催に関しては、組合員からの反発もあったが、地域の最小単位が家族であり、その家族間で失われつつあるコミュニケーションを図るきっかけをつくることの重要性を投げかけながら、組合員の理解を得るように努力されている様子であった。

組合員の活動として、多くの人に参加する活動をあらためて再評価するとともに、組合員のふだんのくらしの関心事、悩み事、生協に対する意見をきちんと聴かせて頂くという意義あるものに前進させてきた

のが、現在の「ばくばくパーティー」である。このような変遷を経てきた「ばくばくパーティー」開催の目的は次の2点である。

- ①組合員のくらしの様子(背景)を知り想いや願いの声を聴きみんなて話し合い事業や活動につなげること。
- ②商品をきっかけにコミュニティとコミュニケーションを生みだし人と人とのつながりを広げること。

②は「ばくばくパーティー」が「仲間とのコミュニケーションの助けになっている」という意見から2012年度より加えられた目的である。また現在は、開催期間関係なくパーティを開催することができるシステムが検討されている。

### (3) 運営形態と読み込み会

「ばくばくパーティー」の実施については、前年度下半期に「ばくばくパーティーワーキングチーム」を立ち上げ実施要領を決めるところから始まる。ワーキングチームの構成員は、理事4名と各部署からの職員4名の8名である。このメンバーによって、開催目的、開催日程、セット内容、広報の方法などが検討される。

「ばくばくパーティー」で最も重視されているものが、組合員の声が詰まった「ばくばくメモ」である。この貴重な声を事業や活動に活かすために、図4の流れで読み込みを行っている。

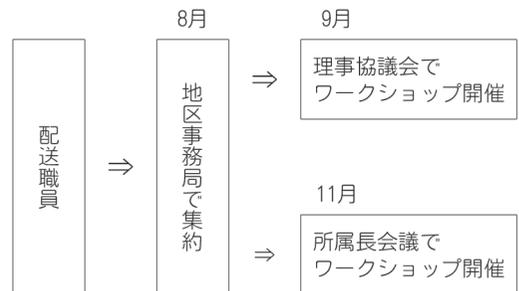


図4 「ばくばくメモ」読み込み会の流れ(2012年度)

まず、注文書と一緒に提出された「メモ」は配達職員が目を通す。報告書を読むことで、組合員とのコミュニケーションをはかることができる。次に、各地区事務局において、集まった「メモ」をスキャンして、重要な内容のものを項目ごとに切り貼りすることでまとめていく。組合員の声そのまま残すことを重視しているため、パソコン入力はしていない。このスキャンされた「メモ」の集まりを全ての地区事務局分を合わせ、「ばくばくメモ集約」という冊子が作られる。この冊子内容にもとづいて理事会での読み込みが行われる。理事会での読み込み会所要時間は2時間であり、参加者は、組合員理事16名、常勤理事4名、地区事務局員などの職員数名で行う。読み込み会の前に集約された「メモ」を各自で読み、それぞれが気になった内容をポストイットに記入しておく。読み込み会当日は5～6人の小グループで検討したのち、2012年度は「メモ」の内容を踏まえて、「コープしがができること」「組合員ができること」について議論した。また、所属長会議でも「メモ」は読み込まれ、「コープしがのすべきこと」を考える貴重な材料となり、長期ビジョンの設定にも活用されている。多くの多様な組合員の声や事業や活動指針に取り込むことを第一の目的としてきた「ばくばくパーティー」では、「ばくばくメモ」の内容が熟読され、議論され、活かされていることがうかがえる。コープしがにとって「ばくばくパーティー」は、コールセンターなどと並んで組合員の声や聴くひとつのツールである。しかし他のツールと大きく異なることは、「ばくばくメモ」では生協への要望だけでなく組合員の生活の様子がありのままに記述されていることであるようだ。そしてその内容が、年々多様化しており、今後はさらに多様化・

複雑化すると見込まれている。現在の課題としては、この「メモ」をさらに活用するために、「メモ」を提出してくれた組合員に、集約された組合員の声がどのように活かされたのかを届けることであり、その方法を現在模索しているところである。



「ばくばくメモ」をもとに読み込みでつくられた図

## 新たな「つながり」づくりをめざす生協しまね

生協しまねでは、2007年から年に1回「おしゃべりパーティー」を企画・開催している。本節では、生協しまねにおける「おしゃべりパーティー」の取組内容、実施するに至った経緯そして現状について紹介する。



2013年8月9日～10日生協しまね訪問調査

表3 生協しまね「おしゃべりパーティー」セット内容と参加人数

年度	呼びかけ月	商品内容	開催箇所数	参加人数 (子ども含む)	参加非組合員数
2007年度	6月	Aセット 切って注いで茶あどうぞ (ロールケーキ、アイスコーヒー他2品)	4,565	20,293	8,905
		Bセット お家でぐびっとピアガーデン (のどごし生、枝豆他2品)			
		Cセット みんなでランチーン (えびしゅうまい、もずくスープ他1品)			
2008年度	6月	Dセット お魚定食召しあがれ (サバの味噌煮、しじみスープ他2品)	5,394	13,423	7,566
		Aセット チーズケーキセット (アイスコーヒー、バイクドチーズケーキ他1品)			
		Bセット ビールセット (のどごし生、ピザマルゲリータ他1品)			
		Cセット ロールパンセット (HATTINGミニロールセット他2品)			
2009年度	9月	Dセット ひとつくちいなりセット (冷凍ひとつくちいなり、お弁当もずく他1品)	4,236	24,184	9,498
		Aセット ロールケーキでお茶タイムセット (白バラ抹茶ロールケーキ、下津冷凍みかん他1品)			
		Bセット 秋の夜長に乾杯!セット (CO-OPスーパーブルー、CO-OPチキンナゲット他1品)			
		Cセット 楽チーン♪プランセット (ツナとコーンのもちもちしたパン、他2品)			
2010年度	9月	Dセット 秋の陽だまりで和ランチセット (CO-OPおいしい赤飯、CO-OPたまご豆腐他1品)	2,533	5,761	2,883
		Aセット ほっと一息ティータイムセット (バウンドケーキ、アイスコーヒー他2品)			
		Bセット まだまだ厚いそでおでんde乾杯セット (金麦、調理済みおでん他1品)			
		Cセット ご飯を炊いたら和あ! 定食セット (ごぼうとこんにゃく煮、食べきりサイズ金時豆他2品)			
2011年度	10月	Dセット みんなで集まり語らひセット (もちり白たいやき、緑茶他2品)	2,144	7,391	4,115
		Aセット お手軽ランチでポー♪ (米粉のプチパン、玉とスープ他1品)			
		Bセット 豆大福で一息しましょ! (豆大福、えび満月、緑茶他1品)			
		Cセット しまね応援セットで乾杯! (出雲そば8割そば、温泉卵、金麦)			
Dセット レンジで太巻き寿司どうぞ (冷凍太巻き寿司、卵スープ他1品)					

出所)『「班」のある風景に組合員のくらしとむすびつきを探る』生協しまね聞き取り資料より筆者作成

### (1) 生協しまねの「おしゃべりパーティー」

「おしゃべりパーティー」は、生協が試食商品セットを無料で提供し、その商品を囲んでおしゃべりを楽しむというものである。呼びかけの「核」となる組合員は自分以外の2人以上(非組合員も可)に「パーティー」へのお誘いを行い、2週間の受付期間に参加予定人数分の商品セット数を注文する。そして生協から商品が届いたら、その商品を囲んで自宅や職場などでおしゃべりをする会、すなわち「おしゃべりパーティー」を開催する。呼びかけ人となった組合員には、「おしゃべりパーティー」に参加した人数、場所、おしゃべりの内容、全体的な感想などについて、「おしゃべりシート」という報告書の提出が求められる。

生協しまねで提供された商品、参加者数は表3のとおりである。呼びかけ時期や商品内容は、4名程度の理事と職員で構成さ

れる「おしゃべりパーティー・チーム」(2013年度からは総合企画室の職員が担当)が毎年決定している。セット内容は、簡単に調理できるもの、誰とパーティをやろうかなとイメージが膨らむようなものや会話が弾むようなものなど、1セット当たり3~4品の組み合わせとなっており、組合員が普段注文しないような商品を試す機会にもなっている。

「おしゃべりパーティー」が他の組合員活動と大きく異なる点として、非組合員も参加できることが挙げられるが、生協しまねにおいても、ほとんどの年度においてパーティー参加者の半数以上が非組合員であることは注目に値する。生協しまねでは、職場班が多く、職場の同僚や上司にも声かけをし、パーティを開催しているケースも多い。このパーティをきっかけに生協に加入した人もいようであり、組合員だけで

なく非組合員も対象とすることで、職場での生協理解にもつながったり、組合員自身が生協を勧める場にもなっている。また、2011年度からは、同居以外の家族であれば家族開催が可能となった。

## (2) 「おしゃべりパーティー」発足の経緯

では、このような「おしゃべりパーティー」が生協しまねで取り込まれるようになったことにはどのような経緯があるのだろうか。

生協しまねでは、1984年の設立当初、生協の機関運営や組織的な活動（組合員の拡大、商品普及など）において「班」が重要な役割を担っていた。当時は、図5のような組織形態のもと、班長会への参加、班会の開催が積極的に実施されていた。また、「班」メンバーの交流も積極的に行われていた。このような「班」の活動を促進するために、「班」には「利用還元金」として「班活動費」が支給されていた。

しかし、1990年代前半頃には、就労する女性が増加し多忙化したこと等により、班会や班長会を積極的に開催することも困難となり、それらの活動は、弱くなっていった。「班」で集まる機会が薄れたことで、「班活動費」の使い道に困る組合員も増えたことなどにより、一律支給から申請制とし、名称も「班応援費」に改正したものの、「班」



図5 生協しまね 活動組織形態

の交流には必ずしも有効に使われていないケースも多く見られた。

2000年代に入ると、地域ステーションや個配もスタートし、「班」というカタチで利用や組織を一括りに捉えることは難しくなってきた。このような状況において、2001年には生協しまねビジョン「想いをかたちに～共に創る豊かな暮らし～」を策定し、一人ひとりの暮らしを見ることから生協を考え、創っていくという運営を目指した。組合員活動においても、機関運営的というより、一人ひとりの組合員が、くらしやその思いを気軽に出し合い、創造できる場を目指した。このビジョンに沿った形で、「班」のつながりについて模索しているときに、教育アドバイザーである毛利敬典氏より、ララコープやコープぎふで実施されていたパーティの情報を入手した。これを契機に、理事や職員がパーティを開催していたララコープを訪問し論議を重ね、2007年から生協しまねにおいても「おしゃべりパーティー」を開催することとなったのである。

生協しまねは、2011年においても班供給高構成比は、全体の約8割を占め、他生協と比較しても「班」の比重が高い状況にある。このような状況において、「班」が人のつながりに果たす役割を再認識するとともに、組合員の地域でのつながりや交流を活性化させるための一つの方法として、「おしゃべりパーティー」という取組みが登場したものと考えられる。

## (3) 報告書の内容と活用

2007年の第1回開催以降、組合員から寄せられる報告書には、「おしゃべりパーティー」の会話内容や感想が寄せられている。「パーティーが、疎遠になっていた班のメンバーとの交流のきっかけになった」

「料理や費用の負担の心配なしに近所の人と交流できることがよい」「久しぶりに職場の人とゆっくり話げできた」など、パーティが人と人とのつながりや情報交換の場を提供するきっかけとなっていることがうかがえる。1回のパーティで半日以上おしゃべりを続ける場合もあるようだ。また、生協の商品についての感想も多く寄せられ、試食を通して商品の伝え合いの場にもなっていることがわかる。

このような報告書を生協活動に有効に活用するために、運営側では報告書を丁寧に読み込んでいる。読み込みは、おしゃべりパーティー・チームの理事、職員の4名程度が参加し、「どんな人とのつながりか」、「どんな話でおしゃべりが弾んだか」など重要な箇所に線を引いて組合員のくらしについて議論するとともに、KJ法を用いることで「おしゃべりパーティー」の意義についても話し合っている。生協しまねでは、報告書を「おしゃべりパーティー」のデータというよりはむしろ、組合員のくらしを知るものとして捉えている。そして、組合員には毎回、開催後の機関誌において、「パーティー」開催者から送られてきた写真とともに報告書に書かれたパーティの楽しい様子を伝えている。また職員を対象として、第1回「おしゃべりパーティー」の後に、役職員の全体会で「おしゃべりパーティー」が参加者にとってどんな場になっていたかについての報告も行われた。「おしゃべりパーティー」の開催率が配送担当職員の働きかけ度合いによって大きく左右されているのも事実である。したがって、配送担当職員たちにとっても、くらしが詰まった報告書を組合員との会話や交流に役立てることができるよう工夫したいとのことである。

#### (4) 「おしゃべりパーティー」への想い

- 生協しまねは、「おしゃべりパーティー」を、
- 思いっきりおしゃべりを楽しみ、語り合うことで、生きる元氣が得られる場
  - 美味しさを実感したり、家族の反応などの話題を通して生協商品が広がる場
  - 組合員が自然に、生協商品や生協のことを非組合員に語る場など

と位置づけて開催している。家族、近所、職場の人と集う場を提供し、希薄となった交流(つながり)を促進させることと同時に、そうしたことを通して広く地域に生協への理解を深めてもらうことなども目的としている。

このような活動の背景には、生協しまねビジョン「想いをかたちに～共に創る豊かな暮らし～」が策定され、このビジョンにおいて「一人ひとりが自分らしく暮らすことや生きることを提起し、人と人とのつながりをつくり深めること」が大切な方針のひとつとして掲げられたことにある。そして、組合員へのアンケート調査や「班」実態調査など、理事や職員が常に組合員のくらしに自らの足で近づこうとする姿勢があったこともこのような活動を導く要因となっていると考えられる。「核になる組合員が自ら声をかけ地域の人と集うことで創られるくらしを語る場からは元氣が生み出されます。いろいろな人とつながって、共に生きる楽しさや良さが実感できる『おしゃべりパーティー』は、『自らつながっていこうとする力』を大切にしている生協しまねの応援です。それは、生協しまねのビジョンそのものなんです」というベテラン理事の言葉は非常に印象深い。今後、このような想いを引き継ぐ理事や職員など担い手育成が重要になってくると考えられる。

